

原	報
---	---

嶋野 武, 水野瑞夫, 江崎秀子: 飯沼慾斎小史 (1)

飯沼慾斎遺稿による採薬地の考察*

Takeshi Shimano, Mizuo Mizuno and Hideko Ezaki:

The Chronicle of Yokusai Iinuma (1)

On the Habitat of the Plants Collected by
Y. Iinuma in his Remained Manuscripts.

Yokusai Iinuma is truly one of the greatest vanguard of the modern botany in Japan. His "Soomoku-Dzusesu" was published 1856, about one hundred years ago.

We studied on the habitat of the plants collected by Y. Iinuma according to manuscripts.

His manuscripts of 27 volume have been reserved in the house of Ezaki at Sunami, Gifu Pref. In the manuscripts there are reproted 1622 kinds of plants. 1259 kinds of them are recorded in the first edition of his "Soomoku-Dzusesu"

The habitats and the years, when they were collected, for only 3 kinds of the plants are known, *Lycopodium sitchense* Ruprecht var. *nikoense* Takeda, Takane-hikagenokazura, *Lycopodiaceae*, *Yoania japonica* Maximowicz, Shooki-ran, *Orchidaceae*, and *Monotropa hypopithys* Linnaeus var. *japonica* Franchet et Savatier, Shakujiyosoo, *Pyrolaceae*. One of the 3 kinds of the plants was collected in Mt. Hakusan 1845, as he was 63 years old. The other 2 were collected in Mt. Komono 1858, in his 76 th year. As to the other about 200 sp. only their habitats are known. In the result, the habitats of the plants collected by him are in the central Japan and Kinki-districts: Mt. Ibuki, Mt. Noogoo-hakusan, Mt. Tateyama, Mt. Komagatake, Mt. Ontake, Kiso, North Prov. Ise, Mt. Asama, South Prov. Ise, Mt. Nachi etc.

(Received September 10, 1961)

略伝

飯沼慾斎 (1782 ~ 1865) は幕末の世界的な植物学者として知られていて、その業績等は牧野富太郎¹⁾、伊藤武夫²⁾、吉川芳秋³⁾等の書および論文に見られる。

飯沼慾斎は天明2年6月10日伊勢国亀山の豪農西村信左衛門(守安)³⁾の二男に生れ、幼名は本平後恵吾と改めた。寛政4年(11才)都邑に博く学んで身を立てることを決し、美濃大垣竹島町の飯沼定九郎(長意)にその志を告げ翌年、大垣俵町飯沼長顕(初代竜夫)に寄食し所期の目的の第一歩を進めた。寛政7~8年小野蘭山が幕命を奉じて各地へ採薬の途中、美濃に立寄ったときその門に入った。寛政11年(18才)京師に遊学し福井桐亭(考証派)について医学を学び、文化6年(28才)には江戸に下り宇田川榛斎、江馬蘭斎、箕作阮甫、藤井万亭らについて蘭法医学を学んだ。その後二代竜夫として飯沼家を継いでから、義弟健介(三代竜夫)に家業を譲るまで、蘭法医術により医者として精魂を傾けた。50才になり退隠して慾斎と号し、大垣城西長松村に平林荘を築

*嶋野武, 水野瑞夫, 江崎秀子: 第14回日本薬学大会にて報告, 1961年7月20日

1) 飯沼慾斎, 牧野富太郎: 増訂草木図説1907~1912.

2) 伊藤武夫: 三重県植物誌481, 1932.

3) 吉川芳秋: 採集と飼育14, 348, 373, 1951.

き西説植物学を講ずると同時に「草木図説」40巻の著作を始めた⁴⁾。これがほとんど成稿したときは70才、嘉永5年である。安政3年(1856)「草木図説」の初篇の版刻がなつて、第四帙を刊布したのは文化2年(1862)の初秋である。悠斎は慶応元年5月5日(1865)84才で死亡、大垣市本町円覚寺に葬られた。

遺稿の出現

三十年の労作である「草木図説」の原稿は長く行方不明になっていたが、江崎家に27巻の稿本が秘蔵されていることが、昭和32年大垣市文化財審議会のメンバーにより明らかにされた。筆者の一人江崎秀子の祖母が飯沼家の出のため江崎家に保管されていたものである(飯沼家系譜参照)。この稿本は吉川氏が1952年(昭和27年)³⁾に報告しているので前述の文化財審議会のメンバーにより明らかにされる以前すでに見られていたようである。しかし稿本の詳細は報告されていない。その後この稿本は数回にわたり専門関係者に閲覧されてきている。

○昭和32年4月6日 天皇が岐阜に行幸されたとき郷土の偉人本草家飯沼悠斎の遺稿として一部天覧された。

○昭和32年7月 関西薬学生連盟主催の学術大会において岐阜薬科大学植物研究部は「飯沼悠斎を偲ぶ」と題して、天然色スライドにより稿本の一部を公開し、同時に菊地原民治はその説明を行った。

○昭和34年4月 日本薬学会名古屋大会において、薬史学部に、本学学長宮道悦男は「東海の本草家について」と題して特別講演を行い、そのうち飯沼悠斎について報告し、遺稿はスライドにより公開された。

○昭和35年9月 日本生薬学会名古屋大会において、飯沼悠斎の遺稿の一部は伊藤圭介博士の遺品、遺墨と共に東山植物園内で展示された。

筆者等は再三稿本を見る機会に接し、絵具で彩色された美麗な、しかも自製の顕微鏡により観察された解剖図を附した正確な図譜に感嘆してきた。

遺稿の内容

現存する27巻の稿本中に収載されている植物点数は1622点にのぼり、そのうちの1259点はすでに草木図説の第一部二十巻に収載されて刊行されたものである。他の359点の植物はいまだ稿本中にねむっているのもので、それらの植物を主として考察を始めたわけである。これらはカヤツリグサ科、イネ科とシダ植物の大部分であつて、大部分は刊行されたものと同様の記載がなされている。従来悠斎が平林荘内に栽植した植物について何等知られず、現存する、テンダイウヤクとハナノキが僅かに喧伝されていたのみであつたが、遺稿の検討から現在では栽植困難かと思われるような植物も栽植されていたことを知り得た⁵⁾。なお舶来植物についても新知見を加えることができた⁶⁾。

稿本は美濃紙二枚折の和綴本で、一冊大体70枚である。最初右半面に写生図を詳細に記入彩色してから二つ折としたものであろう。後半面には別的美濃紙半紙をはりつけるか、また直接にその植物について、採集地、渡来植物ならばその渡来国か渡来船の国名、一般に多く産する地域を書き、次に形態を記し、Kniphofの印葉図等により植物名を考証され、ラテン語による学名およびオランダ名が記されており、これら参考著書に収載されていないものはそのむねが記入してある。

採集地の考察

筆者らはこの採集地と産地を主にとりあげ採集地の考察を行ったのであるが、産地のみが記載されている場合は果して悠斎自身で採集された地のものか、他人からただ聞いたものか、この点非常に迷った。どの年に採集に

4) 白井光太郎：増訂日本博物学年表1908。

5) 嶋野武，水野瑞夫：飯沼悠斎遺稿による平林荘栽植植物の考察，未発表

6) 嶋野武，水野瑞夫：飯沼悠斎遺稿による渡来植物の考察，未発表

でかけられたか不明なのがほとんどであるが〇〇産と書かれたものは確実に慾斎自身の手によって採集されたものであるという結論をもたざるを得なかった。これは慾斎自身で採集されたものは「〇〇にて得る」となっており、再三採集された場合は「〇〇産」とし「得る」ははぶかれている。他人により採集された場合は「某は××にて得る」となっていることが判明したからである。

1600 余点のうち採集年の明確な記載があったものは「細葉のヒカゲノカヅラ」と不明種として取扱われた二種、計三種である。⁷⁾ いずれも刊行された草木図説中に記載されていない。不明種として取扱われた二種はその天然色彩図からシヨウキラン *Yoania japonica* Maximowicz (Orchidaceae) とシヤク ジョウソウ *Monotropa hypopithys* Linnaeus var. *japonica* Franchet et Savatier (Pyrolaceae) であり「細葉ノヒカゲノカヅラ」はタカネノヒカゲノカヅラ *Lycopodium sitchense* Ruprecht var. *nikosense* Takeda (Lycopodiaceae) である、この採集地は白山であるが、白山には吉田、⁸⁾ 杉野、⁹⁾ 奥山等の報告もあり、筆者の嶋野、水野も白山に分布することを確認している。¹⁰⁾ 大井¹¹⁾ は北海道から本州中部以北の高山および屋久島の高山に分布することを記している。稿本解説文には「乙巳之秋白山得之、全形石松ノ一種ニシテ常種ヨリハ茎細ク葉亦細ニシテ剛ク、尖鋭細鱗ノ如ク、而シテ左右上下互ニ兩対シテ茎ヲ囲ム、但ソノ本ニ在ツテ密簇スルニ於テハ其合次分明ナラズ、処々枝ヲ出スモ長カラズシテ、多ク分叉シ、頭末大低齊ク多垂交々相錯シテ、恰モ綫ノ形ノ如シ、枝間花茎ヲ抽キ、亦又分シテ花アリ、形常種ノ花ノ如クニシテ稍小シ二十五種 *Lycopodium circinale*, *Krullig wolfsklaauw*. Lin.」とあって乙巳は弘化二年(1845年)にあたり当時63才である。他の二種シヨウキランとシヤク ジョウソウは同採集地にて同時期に採られたものであるが解説文に乏しい「戊午中夏菰野山中ニテ得之……」となっていて、戊午は安政5年(1858年)当時76才にあたる。シヨウキランは北海道及び本州の深山林中にあり、またシヤクジョウソウは北海道、本州、四国、九州の山地林中にあっていずれも筆者の一人水野は菰野山中で採集している。⁴⁾ 白井は丁度この年の5月、伊藤圭介、古田平九郎、飯沼慾斎と共に、伊勢菰野山に採草するとのべているので、このとき慾斎は始めてこの二植物を採集したことを知った。採集年号の明確なものは上記の三種であるが、いずれも年老いた、63才、76才においてもなお採集行はおこたらなかったことがうかがえる。そのことからしても50才慾斎と号してからの三十年間の採集範囲は非常に広範囲にわたったことは想像するに困難を感じないようである。この三種の如く採集地と採集年月の記載が多ければ全く幸いなことであるのだが。次に年号は不明であるが明らかに自らの手で採集されたものはオヤマリンドウ *Gentiana makinoi* Kusnezow (Gentianaceae) の例がある、即ち「……白山半腹樹木叢生ノ処ニ生ズルヲ取ル…、加州白山又吾能郷等ノ北地高山上ニ生ス……」とあり、白山は明らかに採集地であり、この外「吾能郷白山等の北地高山上ニ生ス……」とあるところよりこれら地区にも採集に行かれたことが明瞭である。オヤマリンドウは本州中部の高山、深山に生ずる。

本州の原野に稀産するステゴビル *Nothoscordum inutile* Kitamura (Liliaceae) は「……雀巢菴¹²⁾ハ東濃ノ山中ニ得、山本氏ハ湖北ノ地ニ得之、余未詳産地……」となっている。材料とされたものが他人から譲渡された時はこれを記す。慾斎自身産地が不明なときは明確に「余未詳産地」と書かれるが常であるようだ。

オランダキジカクシ *Asparagus officinalis* Linn. (Liliaceae) は歐洲原産のもので、稿本には「此ノ種産処

7) 嶋野武, 水野瑞夫: 飯沼慾斎遺稿による草木図説未収載植物の考察, 未発表

8) 吉田裕: 中部日本に於ける薬用植物分布並びにその利用, 栽培研究に関する研究(第一報) 1941.

9) 杉野武雄: 莊白川綜合学術調査報告書(下) 1957.

10) 奥山春季: 植物ハンドブック, 1953.

11) 大井次三郎: 日本植物誌, 1953

12) 尾張の本草家, 古田平九郎.

未詳, 亦或ハ舶来ナラン……」とあって, 草木図説では「此草ハ蘭舶載来チ……」となっている. 稿本期には未だその産地は全く不明であったが, 後に蘭舶来品なることが判明したことがうかがえる.

イワユキノシタ *Tanakaea radicans* Franchet et Savatier (Saxifragaceae) は「……吾郷自生ナシ,¹³⁾ 曾吉 云豆州巖石上ニ多ク生スト……」となっている. イワユキノシタの分布は本州の東海道及び四国(土佐)の溪側, 岩上に稀産するものである.

ラセンソウ *Triumphetta japonica* Makino (Tiliaceae) は本州の関東以西から, 四国, 九州および朝鮮にわたって分布するが, 稿本に「……雀巢菴飛州ニ於テ得, 余遠州ニ於テ採ル共ニ山麓原野ニアリ……」とあり, また, ヒキオコシ *Isodon japonicus* Hara (Labiatae) は「……全花濃紫色ノ品ハ神戸¹⁴⁾の北本条渡シノ北ノ林中ニテ得花ハ頗ル美シ……」のように, なかなか産地が委しく記してあるものもある. ヒキオコシは北海道南部から本州, 四国, 九州, 朝鮮の温帯, 暖帯に分布する. 次の三つもこの例である. イヌハギ *Lespedeza tomentosa* Sieb. (Leguminosae) は「……近郷自生ナシ余ハ知多ノ海浜ニテ得之……」となっていて更に後ほどはられた一紙片があってそれには「赤坂山ニ自生アリ」となっている. イヌハギは本州以南の温帯から熱帯に広く分布する.

オオバノトンボソウ *Planthera minor* Reichenbach, f. (Orchidaceae) は「……トンボソウ中ノ一種尤大ナルモノニシテ菰野山谷汲山等ニテ得之……」シユロソウ *Veratrum maackii* Regel var. *reymondianum* Hara (Liliaceae) には「……往々山中ニ生, 伊吹山最も多シ……」オホバノヤウラクラン *Oberonia japonica* Makino form. *major* Makino (Orchidaceae) は「……余未詳産地, 或云江州山中老樹上ニ得ト……」

産地に関して未詳なときは上例のように確実に記載している. 園中栽植品による観察写生図の場合は「園中所載」のものと明記しており, また「雀巢菴腊葉ヨリ図ヲ書ク」とも記載があり, その由来を明確にしている.

悠斎が採集したと考えられる採集地の記載は約 200 件 ぐらいあって, 全植物の約 1/3 にあたり採集地名は 70 個所におよぶ. そのうち伊吹山は最も多く 42 種類の多数にのぼり, イブキトラノオ *Bistorta major*. S. F. Gray var. *nitens* Hara (Polygonaceae) キバナノレンリソウ *Lathyrus pratensis* Linnaeus (Leguminosae) イブキゼリ *Tilingia holopetala* Kitagawa (Umbelliferae) イブキボウフウ *Seseli libanotis* Koch subsp. *japonica* Hara (Umbelliferae) イブキダイゲキ *Tithymalus pekinensis* Hara var. *ibukiensis* Hara (Euphorbiaceae) イブキジャコウソウ *Thymus quinquecostatus* Celacovsky var. *ibukiensis* Hara (Labiatae) イブキフクロ *Geranium yesoense* Franchet et Savatier form. *lobulatum* Hara (Geraniaceae) イブキワニグチ *Polygonatum ibukiense* Makino (Liliaceae) イブキチドリ *Gymnadenia ibukiense* Makino (Orchidaceae) 等特に伊吹山に多いか, あるいは分布が稀であるが当山に産するものがある. この外草木図説未収載のものにキジョ¹⁵⁾ン, ユキノ¹⁶⁾シタ *Saxifraga stolonifera* Meerburg (Saxifragaceae) ベニバナイナモリソウ, エンドウソウ,¹⁷⁾ ヨツバユキノシ¹⁷⁾タ, キヤマクワイ,¹⁷⁾ ヒメズイセン¹⁷⁾ の 7 種がある.

13) 悠斎の弟子の一人で職業は花屋である. 高年にいたるまで悠斎の採集資料を提供したことがうかがえ伊吹山への晩年の採集行にはかごつきにそって出かけたといわれる.

14) 岐阜県安八郡にあるゴウド.

15) キジョラン *Marsdenia tomentosa* Morren et Decaisne (Asclepiadaceae) と思われる. この分布は本州中南部, 四国, 九州および台湾である.

16) イナモリソウ *Pseudopyxis depressa* Miq. (Rubiaceae) で本州の関東地以西, 四国, 九州の温帯から暖帯に分布する.

17) 未考察.

伊吹山について採集植物の多い地は白山であって38種が見られる。即ちミヤマクワガタ *Veronica senanensis* Maximowicz (Scrophulariaceae) ゴゼンタチバナ *Chamarpericlymenum canadense* Ascherson et Graebner (Cornaceae) マイズルソウ *Majanthemum dilatatum* Nelson et Macbride var. *nipponicum* Hiyama (Liliaceae) ナンキンコザクラ *Primula hakusanensis* Franchet (Primulaceae) イワイチョウ *Fauria crista-galli* Makino (Gentianaceae) ハクサンサイコ *Bupleurum nipponicum* Koso-Poljansky (Umbelliferae) クルマユリ *Lilium medeoloidis* A. Gray (Liliaceae) ツマトリソウ *Trientalis europaea* Linnaeus (Primulaceae) キヌガサソウ *Kinugasa japonica* Tatewaki et Suto (Liliaceae) クロクモソウ *Saxifraga fusa* Maximowicz var. *kikubuki* Ohwi (Saxifragaceae) ハクサンタイゲキ *Tithymalus togakusensis* Hara (Euphorbiaceae) ウサギギク *Arnica unalaschcensis* Lessing var. *tshonoski* Kitamura et Hara (Compositae) キバナノコマノツメ *Viola biflora* Linnaeus (Violaceae) ハクサンチドリ *Orchis aristata* Fischer var. *immaculata* Makino (Orchidaceae) 等の高山植物が主なるものであって、このうちの大部分は白山および近くの大日岳が南限植物となっているものである。なお、未収載植物はイワギキョウ *Campanula lasiocarpa* Chamisso (Campanulaceae) ホソバノヒカゲノカズラ (タカネヒカゲノカズラ ¹⁸⁾ *Lycopodium sitchense* Ruprecht var. *nikoense* Takeda: Lycopodiaceae) フキツメソウ (イワウメ *Diapensia lapponica* Linnaeus subsp. *obovata* Hulten: Diapensiaceae) ミソガワソウ *Nepeta subsessilis* Maximowicz (Labiatae) の4種である。

南勢菌譜6冊、南勢海藻図譜1冊、南海魚譜¹⁹⁾3冊等の著作があることから、南勢紀伊半島方面にたびたび採集に行かれたことが確実である。採集地の記載は朝熊山3、伊勢外宮1、南勢5、熊野2、那智山3、南紀としたもの16で、計30種類の植物に記載されている。南紀16種類のうち4種類はいずれも未収載のシダ¹⁸⁾であって、マツザカシダ *Pteris cretica* Linnaeus var. *albolineata* Hooker (Pteridaceae) スジヒトツバ *Cheiropleuria bicuspis* Prel var. *integrifolia* Eaton (Cheiropleuriaceae) アミシダ *Dictyocline griffithii* Moore var. *wilfordii* Moore (Polypodiaceae) キクシノブ *Humata repens* Diels (Davalliaceae) 等である。その外能郷白山6、立山4、駒ヶ岳6等があり、採集に行かれた地域は平林荘(大垣市城西長松)を中心に中部地方から近畿地方の各地をことごとくその範囲とされたことを知った。

本研究にあたり与えられた本学学長宮道悦男博士の御助言と御支援に深謝し、貴重な草木図説稿本27巻の調査に便宜を与えられた江崎美奈子女史および、初版草木図説を貸与された棚橋美枝女史、系譜の作成に助言された飯沼守一氏に感謝します。

18) 嶋野武, 水野瑞夫: 飯沼愔齋遺稿による草木図説未収載シダ植物の考察, 未発表。

19) 岐阜市美江寺町飯沼守一(七代目竜夫)所蔵。

採薬地及び植物

採薬地	植物数	植 物 和 名
伊 吹 山	42	カノコソウ, オオキヌタソウ, ツルガシワ, チヤボリンドウ, ハルリンドウ, イブキボウフウ, セントウソウ, セリモドキ, キバナノレンリソウ, タニセリモドキ, イブキゼリ, イブキワニグチ, ヒメイズイ, ワスレグサ, ギョウジャニンニク, イブキトラノオ, ミツバベンケイソウ, イブキダイゲキ, カラマツソウ, エンコウソウ, キンバイソウ, ミヤマトウバナ, イブキジャコウソウ, マネキグサ, コゴメグサ, イブキフウロ, ヤマガラシ, グンナイフウロ, ヒメフウロ, カラスノエンドウ, クサフジ, マアザミ, オオヨモギ, ヒゴオミナエシ, イブキチドリ, シュロソウ, *エンドウソウ *キジョン, *ベニバナイナモリソウ, *ヒメズイセン, *ヨツバユキノシタ, *ユキノシタ*キヤマクワイ
古 屋	1	*カラスムギ
粕 川 谷	1	*オオバコバイモ
赤 坂 山	1	イヌハギ
金 生 山	1	ヒメカンゾウ
西 濃	2	キリンソウ, オオバカンゾウ
多 良 山	1	タマガワホトトギス (白花)
夜 叉 嶽	1	ヒメカンゾウ
白 山	38	ミヤマクワガタ, キンレイカ, タウウチソウ, ゴゼンタチバナ, マイヅルソウ, ハナイカリ, ヒメシヤジン, イワザクラ, ナンキンコザクラ, イワイチョウ, オヤマリンドウ, ホソバセントウソウ, シラネニンジン, ハクサンサイコ, クルマユリ, ギョウジャニンニク, ハナゼキシヨウ, ツマトリソウ, キヌガサソウ, ケダイモンジソウ, クロクモソウ, コバノツメクサ, オオバノツメクサ, ハクサンダイゲキ, ミヤマダイコンソウ, ミツバオウレン, キンバイソウ, ウツボグサ, ハクサンフウロ, ミヤマオトギリソウ, ウサギギク, キバナノコマノツメ, ハクサンチドリ, マムシグサ, *イワギキョウ, *ホソバノヒカゲノカヅラ, *フキツメソウ, *ミソガワソウ
能 郷 白 山	6	マイヅルソウ, オヤマリンドウ, オオバユキザサ, ノウゴイチゴ, カラマツソウ, イチゲスミレ
北 山	5	ルリソウ, アサツキ, オオヨモギ, エビネ, チドリソウ
加 賀	1	カガノベンケイソウ
立 山	4	トウヤクリンドウ, ミヤマダイコンソウ, タテヤマオウギ, ウサギギク
駒 ケ 岳	6	ハナイカリ, トウヤクリンドウ, クサレンゲ, ヤマサギソウ, ミヤマモジズリ, *オサバグサ
御 嶽	3	ハナゼキシヨウ, コアツモリソウ, *オサバグサ
木 曾	11	ヤナギラン, センジュガンピ, シヤジクソウ, モミジグサ, タチスミレ, ミヤマツリフネ, エビネ, キソエビネ, キンセイラン, カモメソウ, *ミソガワソウ

和 田 峠	1	オカオグルマ
和 田 嶽	2	ワダソウ, ヤナギラン
浅 間 山	1	オカオグルマ
能 登	1	ウドモドキ
佐 渡	1	シロヨモギ
北 国	3	クリンユキフデ, ヒメヘビイチゴ, コガネイチゴ
東 北	9	イワザクラ, シラヒゲソウ, ハリガネカズラ, クルマバツクバネソウ, コバノツメクサ, ウスユキソウ, ハンゴンソウ, アツモリソウ, *アカモノ
東 国	3	ミズキンバイ, ハエドクソウ, グンバイウチワ
仙 台	1	サジオモダカ
日 光	3	イワザクラ, シラネニンジン, シラネアオイ
武 州	1	シナガワハギ
伊 豆	1	イワダイゲキ
富 士	1	ミツバオウレン
駿 州	1	ツルマオウ
遠 州	2	ダイサギソウ, ラセンソウ
秋 葉 山	1	エンシユウハグマ
鳳 来 寺	1	ホウライジユリ
白 川 山	1	ヤマニンジン
木 曽 川 堤	3	シロバナサクラタデ, タカトウダイ, ホソバアキノノゲシ
金 山	1	ベニカンゾウ
犬 山	1	ヤマタバコ
知 多	2	*ネジイ, ヒメナミキ
南 尾	1	アシタバ
柳 津	2	サクラソウ, タチスミレ
結 村	1	*ナンバンギセル
桑 名	1	シロイヌタデ
四 日 市	1	タチスズシロソウ
富 田	1	*カラスムギ
菰 野 山	4	キンレイカ, コキンバイザサ, ミヤマトウバナ, オオバノトンボソウ
北 勢	4	ヒロハアマナ, イウコクラン, ヒナチドリ, ヒナラン
朝 熊 山	3	アサマリンドウ, ノシュンギク, マムシグサ
伊 勢 外 宮	1	スズコウジュ

南 勢	5	キジョラン, ワタナ, ボウラン, ミヤマウズラ, ツリシュスラン
勢 州	4	ナベワリ, ケイビラン, ハマヨモギ, ダイサギソウ
和 州	1	サイハイラン
熊 野	2	ニオイユリ, コキンバイザサ
那 智 山	3	シライトソウ, ササバラン, *シシンラン
南 紀	16	キジョラン, アシタバ, カワセンゴ, ケイビラン, シライトソウ, ハマヨモギ, カンラン, ナギラン, ムカデラン, ボウラン, ガンセキラン, イウコクラ, *マツザカシダ, *スジヒトツバ, *アミシダ, *キクシノブ
京 都 北 山	3	マネキグサ, スズムシソウ, モメンズル
京 都・貴 船	1	スズムシソウ
京 都・鞍 馬	1	スズムシソウ
京 都・菊 谷	1	リュウノウギク
土 佐	1	キバナノセキコク
西 国	3	カンラン, ナゴラン, ミツバグサ
南 国	1	ナゴラン
肥 前	1	ツルソバ

* 草木図説未収載植物

稿 本 収 載 植 物 数 内 訳

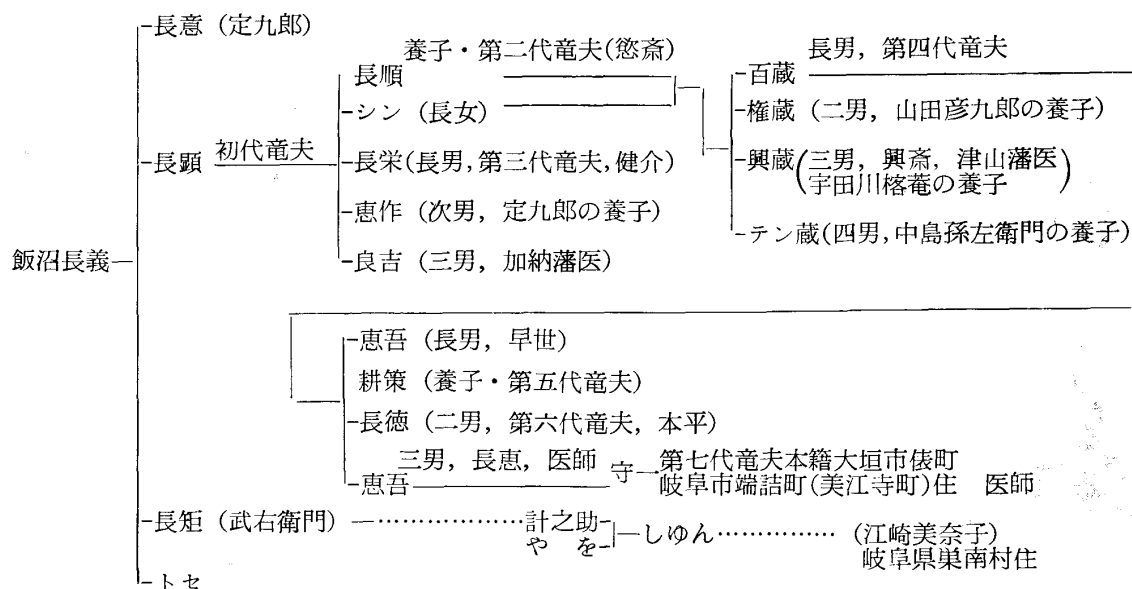
巻 数	収 載 植 物 数			巻 数	収 載 植 物 数		
	I	II	III		I	II	III
草 木 ノ 1	51	9	60	草 木 ノ 15	57	4	61
2	60	3	63	16	59	2	61
3	52	1	53	17	46	16	62
4	64	10	74	18	0	48	48
5	56	9	65	19	0	62	62
6	7	37	44	20	49	1	50
7	63	9	72	21	36	15	51
8	63	13	76	22	49	1	50
9	74	0	74	23	45	6	51
10	7	55	62	24	57	0	57
11	54	3	57	25	52	4	56
12	52	2	54	26	58	21	79
13	58	5	63	27	32	12	44
14	58	11	69	計	1259	359	1622

I 草木図説収載植物数

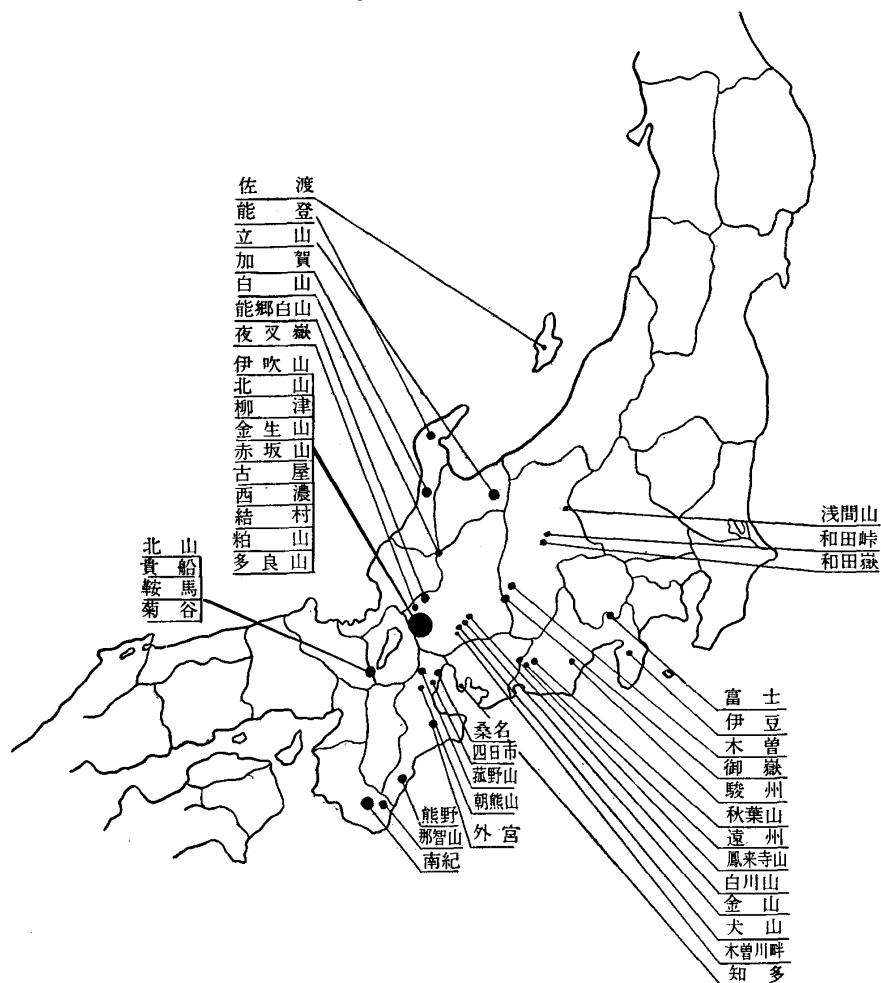
II 草木図説未収載植物数

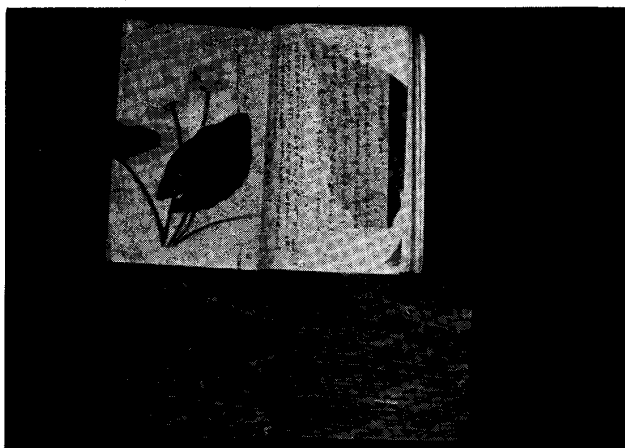
III 稿本収載植物数

飯沼家系譜

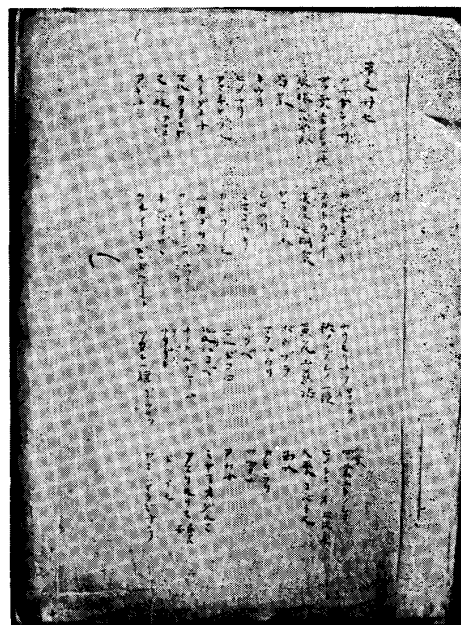


採薬地図





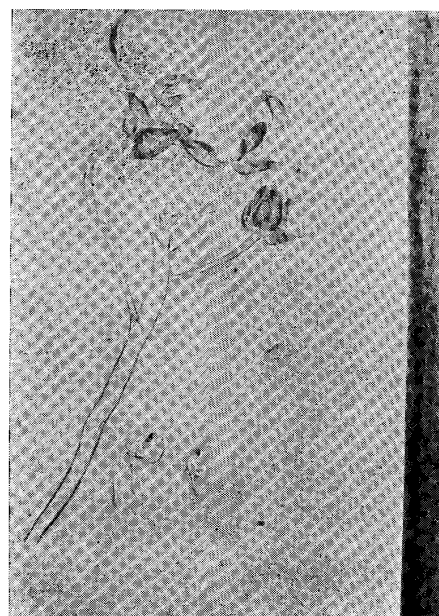
写真(1) 草木図説稿本全 (27巻)



写真(2) 草木図説稿本の表紙



写真(3) 草木図説稿本の一部



写真(4) 草木図説未収載植物の一種